



うまべえ

玉川上水と水の流れコース 定番コース③

2 玉川上水・野火止用水



武蔵野の原野に、玉川上水と野火止用水が開削されました。玉川上水は承応2年(1653)四谷大木戸まで開削、翌3年(1654)完成。承応4年(1655)野火止用水開削。

3 国分寺崖線



国分寺崖線は、古代多摩川が武蔵野台地を削り取ってできた、河岸段丘の連なりである。狭山丘陵の西端から東南に大田区まで続いている。崖線には湧水が多く、市街地の中の親水空間となっている。

4 たぬき堀 (胎内堀)



地下水路にしました。

新堀用水は明治3年に開削され、最初の900mと小川橋の下流200mは胎内堀という暗渠です。胎内堀は縦穴を掘りその底から両側にトンネルを掘って隣とつなげて1つの

5 新堀用水



られた用水です。

明治3年(1870)4月、玉川上水の北側の八か所の分水口を通船事業のため、一つに統合し、現在の小平監視所近くから玉川上水に平行して掘

6_1 彫刻の谷緑道



のできる小さな散歩道です。

小川用水に沿った散策路です。水辺には、小平市内にある武蔵野美術大学の学生が創作した12点の彫刻が置かれています。用水の流れる音を聞きながら、芸術鑑賞

6_2 小川用水



明暦2年(1656)の小川村開発にあたり、村の飲み水を確保するため、開発名主である小川九郎兵衛が私財を投じ開削しました。水路は青梅街道に沿って建ち並ぶ村屋敷内の北側と南側を流れ、明治時代まで各家の生活用水として使われていました。

7 小川用水屈折地



小川橋で新堀用水と分水し、立川通りに沿って流れてきた小川用水が、青梅街道に向かって流れを屈折する場所です。

8 青梅街道の用水分水地



立川通りから青梅街道に流れを変えた小川用水は、この地点で分水し青梅街道の南側と北側両方の各家を流れます。

東やまと観光ガイドの会

URL <https://higashiyamoto.net/kanko/>





うまべえ 玉川上水と水の流れコース 定番コース③

- 1 玉川上水駅
- 2 玉川上水・野火止用水
- 3 国分寺崖線
- 4 たぬき
(胎内)堀
- 5 新堀用水
- 6_1 彫刻の谷
緑道
- 6_2 小川用水
- 7 小川用水屈折地
- 8 小川用水分水地
- 9 有楽製菓
- 10 東大和市駅



玉川上水と水の流れコース

詳細データは下の QR コードから

2 玉川上水・野火止用水



3 国分寺崖線



4 たぬき (胎内)堀



5 新堀用水・分水口の改正



6_1 彫刻の谷緑道



6_2 小川用水

